



下がってしまうこともあり、とても残念でした。夏季の高温やアブラムシへの対策は、来年度の大きな課題になります。

ただ、その中でもイチゴは力強く実り、現在も安定して収穫できています。苦難を乗り越え、立派に実るイチゴに、力強く生きる事を教えて貰えた気がしています。

今年度は、初冬までイチゴを栽培する予定です。多くの人に猿払のイチゴを食べてもらえるように、これからも課題と向き合いながら、たくましく育つイチゴを見守り続けたいと思います。

# イチゴ栽培 に挑戦

旧芦野小学校グラウンド跡地に新設されたビニールハウスで、葉物野菜やイチゴの栽培を行っています。栽培を通して、人の手と最先端技術による新しい施設園芸栽培の調査研究に挑戦しています。



猿払村地域おこし協力隊  
坂入 亮兵

## 初めてのイチゴ栽培

6月に地域おこし協力隊に着任してから、4か月が経ちました。着任当初から施設園芸栽培に携わり、イチゴについて、一から勉強しております。そして、夏季の最盛期を通して、イチゴ栽培に関する様々な経験ができました。

6月頃から、赤、白、桃色の大粒なイチゴが、ハウス内を彩り始めました。中でも、真っ赤なイチゴの信大BS8-9は生育が良く、初年度から収穫量が全国平均を上回っており、とても驚いております。

収穫したイチゴは、Qマートを通して、村民の皆様にお届けする事ができました。また、

甘みと酸味のバランスが絶妙でおいしいという言葉を頂き、栽培している身として、大変嬉しく思います。

順調なイチゴ栽培に思いましたが、想定外だった事もあります。それは、夏季の気温の高さです。冷涼な気候の猿払ですが、今年の夏はとても暑く、ハウス内の温度が35度以上になる日も多々ありました。猿払では考えられないこの暑さは、イチゴにとって非常に過酷です。他にも、大量発生したアブラムシの被害にもありました。これにより、苗が生育不良を起こしたり、実が汚れて商品価値が

